

両毛線の開通

1883（明治16）年、足利郡、安蘇郡^{あそぐん}、上都賀郡、下都賀郡の代表者が、東北線をつくる時には、熊谷^{くまがや}（埼玉県）より足利、佐野、栃木、鹿沼を通してくれるよう、三島通庸^{みしまみちつね}栃木県令^{とちぎけんれい}（今の県知事）に願いを出しました。しかし、政府の考えにより東北線は、小山を通過して宇都宮に至る道筋でつくられるようになりました。しかし、人びとは地域の発展のため是非とも鉄道を建設する必要があると考え、政府にも働きかけて、両毛鉄道会社を作りました。そして、現在の両毛線は、1888（明治21）年に開通しました。

かつて、栃木県と群馬県は一つの国で、「毛^けの国」といいました。のち、2つに分けられ、都に近い群馬県の部分を、「上^{かみ}つ毛の国」、栃木県の部分を「下^{しも}つ毛の国」といい、それぞれ、「上野国」、「下野国」の文字を使うようになり、明治時代の初めまで人びとに親しまれました。栃木、佐野、足利、桐生、前橋などを通る鉄道の名として、両方の「毛の国」を結ぶという意味で、「両毛線」と名づけられたのです。